

SB46 サイドイベント 「Accounting for Integrity: The Paris Agreement, International Aviation, and Double-Claiming」

傍聴報告

2017年6月16日
一般社団法人海外環境協力センター（OECC）

本傍聴報告は、2017年5月8日～19日にドイツ・ボンで開催された国連気候変動枠組条約第46回補助機関会合（SB46）において開催されたサイドイベントの傍聴報告です。

以下、敬称略

- タイトル：十全性を担保するためのアカウンティング：パリ協定、国際航空、二重申請（“Accounting for Integrity: The Paris Agreement, International Aviation, and Double-Claiming”）
- 日時：2017年5月10日（水）16:45 - 18:15
- 主催：環境保護基金（Environmental Defense Fund: EDF）、Carbon Market Watch、欧州交通・環境連盟（European Federation for Transport & Environment: T&E）
- 会場：Kaminzimmer
- モデレーター：Aki Kachi（Carbon Market Watch）
- プレゼンター：Andrew Murphy（T&E）、Christina Hood（国際エネルギー機関：IEA）、Lambert Schneider（Stockholm Environment Institute: SEI）、Alex Hanafi（EDF）、Angelica Romero（チリ政府）、Kelsey Perlman（Carbon Market Watch）

概要

- 航空会社が自ら排出した温室効果ガス（GHG）排出量をオフセットする際、国際民間航空のためのカーボン・オフセット及び削減スキーム（CORSIA）を遵守するだけでなく、十全性を確保してパリ協定を着実に実施するために必要な措置について、国際機関、シンクタンク、政府、NGO から登壇した専門家から見解が発表され、議論された。京都メカニズムやボランタリー市場における経験を踏まえ、国連気候変動枠組条約事務局（UNFCCC）と国際民間航空機関（ICAO）が留意すべき論点が整理された。

発表内容

1. Andrew Murphy（T&E）：「CORSIA の総論（“Intro to CORSIA”）」
- ICAO のオブザーバーの立場から、CORSIA の総論を紹介する。
 - ICAO の将来予測によれば、国際航空部門は 1.5°C抑制のために排出可能な GHG 量の

1/4 を消費してしまう。

- 現在までに約 70 か国が CORSIA への自発的参加を表明している¹。CORSIA は国際航空部門からの GHG 排出量を 20%程度オフセットすることを目指している。
- 前回の ICAO 総会決定では、二重申請（ダブルクレーミング）は認められないことが規定されている。

2. Christina Hood (IEA) : 「パリ協定の枠組と航空部門との二重計上を回避するために (“Avoiding double counting between the Paris Agreement world and the aviation sector”）」

- パリ協定の枠組下で各国が提出した約束（NDC）は、多種多様で複雑である。例えば、成り行きシナリオ（BAU）を採用したものや、GHG 目標ではなく再生可能エネルギー目標を掲げたもの、経済全体を対象としたもの、定性的目標、条件付き目標／無条件で達成する目標、等である。
- パリ協定第 6 条に係る国際交渉では、パリ協定枠組内で NDC の二重計上を回避する方を議論している。排出削減単位（ユニット）が売却された時点でアカウンティングするのがよい。ユニットが創出された時点でアカウンティングしても追跡しきれない。
- パリ協定枠組内と航空部門とで削減量が二重に計上されないようにするべきである。二重計上を回避するための懸念事項は 2 つある：（1）NDC が複雑すぎること、（2）UNFCCC と航空部門で使用される用語が異なること。

3. Lambert Schneider (SEI) : 「CORSIAにおける二重計上の回避 (“Avoiding double counting under CORSIA”）」

- 堅牢なアカウンティングのための課題を紹介する。堅牢なアカウンティングのためには、削減量の移転を追跡することと、二重計上を回避することが必要である。
- 国による削減目標と CORSIA とで、削減量が二重申請されることを懸念する。A 国において実現した削減量が、A 国の国家 GHG 排出目録（インベントリ）に反映され、当該削減量を購入した航空会社がオフセットに使用した場合、二重申請となる。このような事態を回避するには、A 国のインベントリで排出量に当該削減量を上乗せして報告するか、航空会社は当該排出量でオフセットした量を削減目標に上乗せする必要がある。
- CDM では二重申請は考慮せず、CDM 制度内の二重発行がチェックされるのみである。
- CORSIA が抱える大きなリスクとは、二重申請の可能性である。これを回避するには、CORSIA と UNFCCC の両枠組で対策が必要である。CORSIA の枠組内でオフセットする際には、購入した削減量が調整済である旨を示す書面を必須とするのがよい。そのためには、購入するオフセット・プロジェクトのホスト国から承認レターを発出してもらう必要があり、当該レターにおいて、ホスト国は移転量を調整した排出量をインベ

¹ CORSIA 参加国一覧
<https://www.icao.int/environmental-protection/Pages/market-based-measures.aspx>

ントリとして報告することを約束してもらうこととなる。

4. Alex Hanafi (EDF) : 「航空とパリ : 気候変動に係る協定を機能させるために、透明性が果たす主要な役割 (“Aviation and Paris: Transparency’ s essential role in making climate agreements work”)」

- 透明性とは、市場メカニズムによる目標の達成やクレジットの質の確保のために、どのような情報が必要とされており、そのニーズに対応する情報を開示しているかである。
- パリ協定において十全性を担保するには、CORISIAにおいて透明性が確保されること必要である。排出量の多寡よりも質のほうが重要である。
- CORISIAで透明性を確保するために求められること ;
 - ✓ 各航空会社が排出量の年間報告書を公表すること
 - ✓ クレジットの取消とその根拠を示す年間報告書
 - ✓ ルールを策定する過程が透明であること
 - ✓ 二重申請を認めないこと

5. Angelica Romero (チリ政府)

- 堅牢なアカウンティングが必要であり、二重計上は回避されねばならない。
- ICAOとパリ協定は同じテーブルで作業すべきである。チリでは先日、MRV制度を開発するべく、ICAOとパリ協定交渉官を招いてラウンドテーブルで議論した。

6. Kelsey Perlman (Carbon Market Watch) : 「CORISIAに係るUNFCCCとICAOの責務 (“UNFCCC and ICAO responsibilities for CORISIA”)」

- 産業革命前と比較して世界の平均気温上昇を1.5°Cまでに抑えるという世界全体の長期目標 (1.5°C目標) を達成するには、透明性はパリ協定を支える主要な要素である。
- ICAOとUNFCCCが協力しないと論点に対処できない。
- 市場における透明性を高めるには、制度参加者が、ユニットの環境十全性が高いと自負できるよう、クレジットの質や登録簿について十分な情報を開示する必要がある。また、一般市民や民間企業が容易に理解できるよう、信頼性や遵守に係る説明が求められる。
- CORISIAのルールや情報は一般公開されていないが、市場メカニズムに係る規則と手順に従うべきである。また、UNFCCC交渉ではマラケシュで開催されたCOP22に続き、現在開催されているSB46でも、パリ協定第6条に係る交渉からオブザーバーが排除されたのは問題である。透明性を欠いては正確に俯瞰することができず、そのような状況で市場は好ましく機能しない。
- 航空部門が掲げている計画では、1.5°C目標達成は難しいだろう。野心を向上する仕組

みが必要である。

- CDMは京都議定書の枠組で実施された市場メカニズムであるが、環境十全性は十分に担保されなかった。
- ICAOとUNFCCCが優先して取り組むべき課題は、堅牢な国際登録簿の整備である。CORISIAの登録簿と、パリ協定に係る国際移転ログをどのように連携させるか、これから明らかにしていく必要がある。

■ オープンフロア（登壇者及びフロアからのコメント）

- Angelica Romero（チリ政府）：ICAOはCORISIAの検討に当たって、パリ協定における議論のプロセスを待つことはできない。
- ボランタリー市場関係者：記憶が正しければ、ボランタリークレジットの移転・無効化を行った際に割当量単位（AAU）の調整を行う国はオーストラリアとハンガリーだけであり、ほとんどの欧州諸国からは規模が小さすぎるという理由で断られた。
- 世界自然保護基金（WWF）：クレジットの質は価格に左右される。

（報告者：OECC 小柳 百合子）

サイドイベント傍聴報告については以下をご覧ください。

日本語版 http://www.mmechanisms.org/info/event/details_oecc_SB46report.html